

カリタス ジャパン ニュース



栄養改善ワークショップで学んだ食事を共にとる母子（カンボジア）

■ 東日本大震災 ■	カリタス釜石よりの報告 ～災害復興支援活動の始まりから現在～	2
■ 視 察 報 告 ■	カンボジア視察報告	3
■ プロジェクト報告 ■	10年目のダルフル紛争	5
■ 啓発部会のページ ■	セミナー報告	6

隔月発行となりました。次号は8月号(7月20日発行)です。

カリタス釜石よりの報告 ～災害復興支援活動の始まりから現在～

特定非営利活動法人 カリタス釜石 副理事長 伊瀬聖子

■始まり

カリタス釜石の活動は、カトリック釜石教会と遠野教会の有志による緊急人道支援から始まった。この活動は誰かの指示や勧告を受けたわけではなく、自らが自分の意志によって始めた、まさにボランティアであった。カトリック釜石教会は床上浸水し、水が引いた後も一階のカーペットは塩とヘドロが入り混じった変な匂いが充満していた。庭には瓦礫や車などが横転し、炊き出し用の燃料には何処からか流れ着いた炭や木材を利用した。そんな最中、カトリック釜石教会の中に「仙台教区サポートセンター釜石ベース」が設置された。2011年4月2日のことである。

■これまでの活動

釜石ベース開設当時の活動は、①災害ボランティアセンターへのボランティア派遣(釜石市・大槌町)と②近隣への救援活動(カリタス釜石独自の一般ボランティア活動)に二分できる。

近隣への救援活動の一環として瓦礫除去以外にも、教会の一階ホールにて全国各地から寄せられた救援物資の無料配布を行なった。5月中旬、ホールの一角に椅子と机を設置し、お茶を提供するサロン形式の傾聴活動を導入した。このホールは「ふいりあ」と名付けられ、地域の人々に開かれたフリースペースへと移行した。常連の溜まり場になり、初めて教会を訪れる人が増えてきた。釜石ベースは他にも「グリーンケアセミナー」をはじめ、各種セミナー、コンサート、教育委員会主催の放課後学習教室への会場開放等を継続している。

また、社会福祉協議会への協力としては、震災直後は主に炊き出し、救援物資配布、瓦礫除去、泥出し等を行なった。その後、写真洗浄、お茶っこサロン、子ども支援、イベント、引越し作業等へと移行していった。現在ではメインの活動となっている「お茶っこサロン」は、多い時には毎日2カ所で開催した。仮設住宅でのお茶っこサロン以外にも、釜石市生活応援センターより要請を受け「見守り支援」や、各地の仮設に散らばってしまった被災者が元々住んでいた地域で集うことのできる「元地域サロン」も実施している。こうしてカリタス釜石の活動は、いわゆる「定住型」「寄り添い型」の活動が大半を占めるようになった。

■NPO法人化へ

2013年3月19日、カリタス釜石は地元のNPOとして法人化された。2年間、一日も止まることなく活動を続けてきた背景には、設立当時のボランティアから現在まで脈々と受け継がれた「想い」や「こころ」があった。彼らとすべての支援者の熱い想いが目に見える形となって地に根を張ろうとしている。より公益性や透明性が求められるだろう。NPOカリタス釜石は地元ネットワークと協働しながら恒久的な活動を視野に入れ、新しい釜石のまちづくりに参与する。震災によって表出したが、しかし元々そこにあった様々な問題にも取り組んでいく。地元の法人だからこそ可能な支援や活動が多々ある。世界中からの善意や祈りを直接被災地につなげるためには「いつもそこに居る存在」が欠かせない。カリタス釜石が「ひと」と「ひと」の交わりの場となり、大震災によって傷ついた人びとに寄り添いながら、まちの復興、こころの癒し、やがて人間性の回復に繋がる活動へと発展していけるように願って止まない。

カンボジア視察報告

カリタスジャパン（事務局長・田所功、事業担当・横山葉子）は、4月4～11日の八日間、カンボジアを訪ね事業視察を行いました。

近年、目まぐるしい経済成長をとげているカンボジアには約1,500万人の人々が暮らしています。1975年に内戦で勝利したポル・ポト政権の下、多くの教師、医師、宗教者等が虐殺されました。その後、ベトナム戦争の影響を受け、より大きな内戦が続きました。その悲しい歴史を超え、平和な国づくりに向けて歩き始めて約20年。しかし、長い内戦の影響を受けたカンボジアは、現在、国民の半数以上が40歳以下で、特に中高年の医師や教師が極端に不足しています。そして、国が計画し実施されている医療や教育の予算のうち7割以上が海外からの援助に頼らざるを得ない状況が続いています。

カリタスジャパンは、パートナー団体であるカリタスカンボジアの活動を通じて、カンボジアの内戦後の日々をともに歩みながら、医療と若者教育の支援を続けています。

コンポントム州医療センター支援

コンポントム州保健省管轄の同医療センターは、国家医療計画により設置されたものの、国の医療費予算不足により医薬品や注射器などの基本的な備品さえも足りず、かつては高額医療費を支払うことができる一部の人々のみが利用できる施設でした。また、修理費用の不足により多くの機材が使えず、患者が命を落とすことさえありました。そこで、カリタスカンボジアは州保健省の要請を受け、同センターへの支援を開始し、長い年月をかけてやっと医療サービスを地域の貧しい人々へ届けることができるようになりました。近年では、複数の援助団体と連携しながら、「貧しい人々が無料で医療サービスを受けるための医療保険制度」を国の制度として導入するための提言活動など、制度実現に向けて全力を尽くしています。また、小さな村のコミュニティレベルへ「医療サービスの存在」を伝える活動も続けられ、同時に、母子の健康を目的とした栄養改善ワークショップ等も実施されています。これらの活動は、各村に配置されているボランティアに支えられ、コミュニティの団結と発展に大きく寄与してきました。その一例として、同州内



「村民助け合い基金」活動のミーティング



Koun 村の Cok South 村長

Taapeng Russeg コミューン（8～10の村から成る行政体）内にある Koun 村では、2年前に「村民助け合い基金制度」が発足し、16年間ボランティアとして活躍する女性 Ngim さんをリーダーとして活動が始まりました。大病や事故に伴う手術など高額医療の支払いに村民メンバーの積立金を充て、緊急時に互いを支え合う制度です。「コミュニティづくりはさまざまな活動の積み重ねであり、さまざまな人々の力の積み重ねだ」と素敵な笑顔で話す Cok South 村長。住民の積極的な活動は、縁の下の力持ちのサポート役として力を発揮する村長の尽力にしっかりと支えられています。

若者教育支援

首都プノンペン市中心部から車で約15分に位置するカンダール地域にカリタスカンボジアが運営する若者開発センターがあります。このセンターでは、全国から集まった貧困層家庭の若者を対象に、実際の労働現場で研修を受ける形の「実践的な職業訓練」に取り組んでいます。また、中途退学者を対象とした識字教育や、障がい者向けの社会適応プログラム等、個人に合わせた個別カリキュラムも用意されています。



若者センターの授業の様子
(NGO スタッフを目指すコミュニティ開発コース)

経済成長が進む中、国内に多くの工場が新設され、縫製業や自動車整備、観光に関連する各種サービス業等、時代に沿って職種も形を変えています。このような中、生徒たちがより多くの雇用の機会へ繋がることできるよう、同センターのプロジェクトチームは需要の大きい職種を調査し、毎年のプログラムに取り入れています。現在は、従来の自動車整備、塗装、電気製品修理に加え、エアコン修理、携帯電話販売・修理、ホテルレストラン向けサービス、美容エステ、会計事務、総務事務、その他、絵ハガキや土産用の絵画を描く画家養成コースなどもあります。また、カンボジアでは多くの海外援助団体が活動していることから「コミュニティ開発コース」への希望者も増加しており、卒業生の多くが様々な分野の団体で国の発展に向けて活躍しています。カンボジア政府は、市民レベルの取り組みで歴史を積み上げてきた同センターの働きを認め、コース修了者を対象に公式認定書を発行しています。

センターでは、多面的な努力により、毎年約8割の生徒が就職し、残り2割の生徒は奨学金取得などにより進学しています。多くの場合、研修先に就職するのがこのプログラムの強みです。中にはセンターで知り合った仲間同士が集まり起業をするケースもあります。どの就職先へ進んだ場合でもセンタースタッフや先輩からサポートを受ける体制があり、こうした繋がりがそれぞれを内面的に支え合い、同時に卒業生ネットワークを築く力となっています。

自立発展を目指すものの国内だけの力ではどうしようもなく、海外援助がまだまだ必要とされるカンボジアの現状です。これからも皆さま方の暖かいご支援を宜しくお願いいたします。（事務局：横山葉子）

10年目のダルフル紛争

世界で最悪の人道危機の一つに数えられるダルフル紛争。干ばつに起因する、農耕民（主にアフリカ系）と遊牧民（主にアラブ系）との水を巡る衝突がきっかけとも言われていますが、背景は根深く、かつその経過も複雑です。

アフリカ最大の面積を持つ国スーダンの西部に位置するダルフルは、もともと国内でも最も貧しく見捨てられたようなところでした。不満を募らせた人々は反政府勢力を結成し2003年に武装蜂起、これに対してスーダン政府は空爆などで民兵組織ジャンジャウィードを支援し、地域のアフリカ系住民の大規模な虐殺や村落の破壊を行いました。

カリタスとACT（プロテスタント系援助組織）は共同で2004年6月から、この紛争によって家を追われた国内避難民の支援を行っています。国連によると、ダルフルでは現在340万人が人道支援を必要としており、このうち140万人が国内避難民キャンプで食糧支援を受けています（ダルフル地方の人口は約600万人）。

当初の支援は食料や水の供給、シェルター（仮の住まい）やトイレの設置など緊急性の強いものでしたが、問題解決が長引くにつれ、コミュニティ形成や平和構築などにも重点が置かれるようになりました。そして今年、コミュニティの「力」を強化するための、「生計手段支援」がプログラムの中心になっています。これは、物やサービスを提供する「直接支援」から、人々が自分たちで生計手段を持ち、生きていく力を付けていくことを目指す支援への移行を意味しています。今年、農業についてのトレーニング、種子や農具、家畜の提供、職業訓練、収入創出活動への初期投資、コミュニティ内に形成された各種委員会（保健委員会、水委員会、環境保護委員会など）へのトレーニングや指導員の育成などを行います。この他、これまで同様、水・衛生、保健・栄養・HIV/AIDS、緊急事態対応、学校・教育、平和構築の各分野での活動も継続します。

（事務局：小野亜衣子）



給水パイプ修繕の実習 ©Laura Sheahen/Caritas-Act



職業訓練センターで手芸を修得した女性 ©Laura Sheahen/Caritas-Act



人々の健康や栄養状態を診断するクリニックにて ©Laura Sheahen/Caritas-Act

カリタスジャパンはスーダンへの募金を受け付けています！
郵便振替用紙の〈呼びかけ中の募金〉の欄に「スーダン支援」とお書き下さい。

セミナー報告

大阪大司教区 神戸地区社会活動委員会 事務局 長瀬三千子



3月17日(日)神戸中央教会に於て、「自死の現実を見つめて—私たちにできること—」と題してのセミナーと分かち合いをカリタスジャパンとの共催で実施しました。基調講演では幸田司教様が『自死の現実を見つめて』の2冊子を出すことになった経緯についてお話^{おかくてるみ}くださいました。続いての講師はLive on代表の尾角光美さん。19歳の時に母を自死で亡くし7年間自責の念に苦しみますが、あしなが育英会の自死遺児の会に参加し、気持ちを分かち合うことの大切さを知ったことをきっかけに、遺族と最初に接する葬儀社やお寺の僧侶に遺族に寄り添ってほしいと働きかけ、遺族を支える「グリーンサポート」を立ち上げ、学校やお寺でいのちの大切さを伝える活動を積極的に行っておられます。自分が死なずにいられたのはいつも話を聞いてくれる友人がいたからと、辛い体験を明るく語ってくださいました。

二人目の講師は、大阪自殺防止センター長の^{ふか おひし}深尾泰さん。電話相談では必ず相談者に自死念慮の問いかけをするそうです。それは相手の気持ちをしっかりと受け止め十分に話していただくため、死以外に方法はないか一緒に考え、自己決定の尊重もされるということです。相談員は重い話を長時間聴く為しんどくなるので、相談員同士で連携し合い喜びも辛さも分かち合うことが大切だということでした。講演後、11グループに分かれての分かち合いの時間ももたれました。心に残った話。僧侶が「自殺は罪ですか?」と。「自殺した人の罪でもなく、家族の罪でもない。みんなの罪です。自殺したくなる人を生み出した私たちの罪です」と。静かに寄り添い話を聴く、私たちにできることではないでしょうか。



幸田司教



尾角光美さん



深尾泰さん

会議報告

2013年度カリタスジャパン臨時全国教区担当者会議 報告

4月23日から24日にかけて、臨時の全国教区担当者会議が日本カトリック会館マレラホールにて行われました。主な議題は、本年9月からの新しい委員の選出です。次の方々が、2013年9月より3年間、それぞれの会議に参加して下さることに決まりました。よろしくお願い致します！（以下、敬称略）



会議の様子

- カリタスジャパン委員会……………芹沢 博仁（援助部会代表）
吉田 繁（啓発部会代表）
- 啓発部会……………勝谷 太治
（各管区より1名選出） 野寄 一夫
吉田 繁
- 援助部会……………芹沢 博仁
アントニサーミ・イルダヤラージ

カリタスジャパンには「カリタスジャパン委員会」「援助部会」「啓発部会」に力を貸して下さる委員の方々、そして各教区を代表してカリタスジャパンの活動に協力下さる教区担当者の方々（教区長任命）がいます。教区担当者の皆さんは、各教区の「四旬節 愛の献金」キャンペーンの窓口として、また委員会や部会の委員として、カリタスジャパンの活動を全面的に支援して下さいます。それぞれの教区担当者の皆さんをご紹介します：

- 東京教会管区：勝谷 太治（札幌）、ヴァレラ・ミゲル（仙台）、町田 正（新潟）、
ディ・ソーザ・クレーバー（さいたま）、豊島 治（東京）、芹沢 博仁（横浜）
- 大阪教会管区：七種 照夫（名古屋）、アントニオ・バルデス（京都）、敷島 康雄（大阪）、
野寄 一夫（広島）、アントニサーミ・イルダヤラージ（高松）
- 長崎教会管区：伊東 成晃（福岡）、大瀬良 直人（長崎）、吉田 繁（大分）、川口 茂（鹿児島）、
ヨアキム・ホアイ（那覇） *下線は教区担当者会実行委員（事務局：喜代永文子）

事務局より

新しいパンフレットができました！

カリタスジャパンの活動を紹介する新しいパンフレット（A4 横サイズ、三つ折り）ができました。

街頭募金活動に！ 展示パネルとともに！ アクリル募金箱設置の際に！ カリタスジャパン活動報告会などに！ さまざまな時にご活用ください。

必要な方は事務局まで部数をご連絡ください。郵送料ともに無料でお分けします。



国際カリタス緊急支援要請(Emergency Appeal/EA)

(援助金は国際カリタスを通して、現地のカリタス救援本部に届けられます)

1.スーダン：ダルフル国内避難民支援(EA41/12 CJ: 057-12)

援助団体：ACT/カリタス

¥ 2,795,700

【本号5ページ参照】

2.モザンビーク：洪水災害緊急支援(EA02/13 CJ: 059-12)

援助団体：カリタス英国 (CAFOD)

¥ 1,217,200

モザンビークでは大規模な洪水災害で20万人が被災し、中でもガザ州は最も深刻な被害を受け、15万人が避難しています。これらの避難者には十分な食料、安全な水、住居や衛生設備がなく、病気の蔓延や治安の問題が懸念されています。カリタス英国は、カリタスモザンビークおよび被災地の教区カリタスと共同で食料、衛生用品、仮設住居のためのビニールシート、浄水剤、蚊帳、医薬品、掃除用具の配布、そして簡易トイレの設置を行います。

3.ケニア：ソマリア難民キャンプ水・衛生プログラム(EA03/13 CJ: 060-12)

援助団体：カリタス米国 (CRS)

¥ 1,217,200

干ばつと情勢不安のためソマリアからは多くの難民が流出しており、ケニア北東部のダダーブに設けられた五つの難民キャンプには2012年11月時点で45万6千人が収容されています。カリタス米国はカンビオスでの水・衛生支援の2年目を実施します。新規にキャンプに到着した難民のために、簡易トイレの設置と共に、溜まり水を防ぐための側溝の整備、ゴミ収集システムの確立、衛生用品の配布と衛生教育、井戸から汲み上げた水の供給を行います。

4.スーダン：ヌバ山地紛争避難民緊急支援(EA04/13 CJ: 061-12)

援助団体：カリタスアイルランド (Trocaire)

¥ 2,434,400

2011年6月から南コルドファンで始まった、スーダン軍とスーダン人民解放運動・北部の間の武力衝突は52万人に影響し、空襲では数百人が亡くなると共にそれ以上の負傷者が出ています。南コルドファンはスーダンと南スーダンの国境に位置し、ヌバと呼ばれる人々が、農業や採集、家畜飼育を営みながら暮らしていましたが、このたびの混乱により通常の生活が困難となり、深刻な食糧危機に陥っています。医療サービスと医薬品の提供、学校給食を含む食料と栄養の提供、物資の配布、井戸の設置、保健衛生教育などを行います。

国内援助

<東日本大震災>

1.仙台教区：南三陸におけるこころのケア(CJ: 12-053)

援助団体：パストラルケアセンター HUGハウス ¥ 9,667,512

当団体はもともと神戸で活動していましたが、今回の震災直後から南三陸の避難所で、その後も拠点を南三陸に移して仮設住宅を回り、ケアカフェを通じた心のケアや個別訪問、個別カウンセリングを行っています。心のケア活動は、長期的かつ地域に根ざした取り組みが必要とされます。そのため現在法人登記申請中で、今後は継続して町の住民の尊い命に寄り添う地元の人材育成に力を入れていきます。カリタスジャパンは活動費の一部を支援します。

活動日誌

2013年3月6日(水)啓発部会

報告(1)東日本大震災対応 (2)セミナー進捗状況 (3)日本キリスト教社会福祉学会(6月21日)に幸田司教が登壇 審議(1)2013年度事業内容(国内援助への関わり方について、公開勉強会の可能性について)

2013年3月21日(木)カリタスジャパン委員会

報告(1)啓発部会 (2)援助部会(インドネシアワーキンググループ会議および視察、カリタスアジアリーダーシップトレーニングと資金調達セミナー参加) (3)東日本大震災対応 (4)2012年度海外援助実績 (5)12-1月度収支および募金(2012年度クリスマス募金収入総額13百万円) 審議(1)カリタス香港60周年記念式典参加(5月15-18日)承認 (2)国内援助ガイドライン2013年度版について (3)東日本大震災対応について(中長期計画について、活動の振り返りと評価について、2013年度EA承認) (4)2014年四旬節小冊子の内容について (5)援助案件 国内(東日本大震災)1件、海外5件を審査、承認

募金に関するお願い

いつもカリタスジャパンへのご支援ありがとうございます。皆様のご意向を正確に反映し、領収証発行手続きをスムーズに行うため、以下の通りお願い申し上げます。ご意向の指定がない場合は最優先の援助に充てさせていただきます。

●「ゆうちょダイレクト」インターネットサービスをご利用の場合

「ご依頼人番号」欄に、以下の5桁の固有番号を入力下さい。なお、匿名希望の方は、固有番号の後に、スペースを1字分空け、続けて「000」を入力下さい。

四旬節献金	11000
国内援助	11200
海外援助	11300
クリスマス募金	12000
カリタスジャパン事務局営支援	10100

〈現在呼びかけ中の募金〉

東日本大震災	11502
スーダン支援	11302

●ゆうちょ銀行のATMからお振り込みの場合

お手数ですが「払込取扱票」をご使用いただきますようお願い致します。手数料のかからない専用の用紙がございます。事務局までご請求下さい。

●ゆうちょ銀行以外の銀行からお振り込みの場合

事前にお名前、ご住所、ご意向を事務局までお知らせ下さい。

カリタスジャパンの活動へのご支援を今後ともよろしくお願い致します

〔2013年2月1日～3月31日の献金額〕	〔単位：円〕
四旬節献金	7,682,002
国内援助	667,187
海外援助	8,382,378
スーダン支援	28,000
ハイチ地震	100,000
東日本大震災	14,741,381
クリスマス募金	738,363
運営寄付	77,220
	32,416,531

カリタスジャパンの活動は皆様の日頃の募金と「四旬節 愛の献金」によって支えられています。募金専用の払込取扱票をご用意しておりますので事務局までご請求下さい。なお、お名前にはフリガナをお書き下さり、グループ名・修道会名は正式名称でご記入くださいますようお願い致します。